

年 組 名 前 :



小中学校の再編案を示した住民説明会。住民からは統廃合の妥当性を問う質問が相次いだ。＝市川三郷町役場（2月6日）



深沢 滯

### 市川三郷町

# 学校再編 反対相次ぐ 教育環境の悪化を懸念

市川三郷町の小中学校の規模や配置について検討する「町立小中学校適正規模・配置等検討委員会」が学校数を現在の半数程度に再編する案をまとめたことを巡り、町教委が町内6地区で開いた住民説明会が終了した。会合では小規模校の学区を中心に「これまでの教育環境が失われるなどとして反対する声が目立った。検討委員は意見を参考に再編案について改めて議論するが、町や検討委員は「将来的に再編は必要」との考えを崩していない。」（深沢滯）

「今ここで反対と言えは統廃を強めた。町教委の担当者は合せずには済むのか。1月中旬、「再編は」確定ではない」と市川南小中の学区を対象にした。した上で「将来的には必要にな説明会で、出席者の男性が語ることにも理解いただきたい」

昨年5月に町教委が設置し、元教員や保護者代表らでつくる検討委員は、これまでに5回の会合を開き、統廃合の必要性や適正な配置を協議してきた。

町教委によると、町が発足した2005年の町内小中学校の児童数は1070人、中学校の生徒数は518人だった。24年には600人、280人にそれぞれ減少した。将来的にさらに減少する見通しであることから、町内6小学校を3校、4中学校を1、2校とする再編案を取りまとめた。町教委は1月中旬、2月上旬に6カ所で説明会を開き、住民から再編案に対する意見を聴くとともに、統廃合への



説明会の出席者からは人数規模の妥当性や児童生徒の心理的負担をたずねる質問が続出。「子どもが大人数になじめるか心配」「学校がなくなれば地域が衰退する」などの声も上がり、統廃合に否定的な意見が目立った。町が財政非常事態宣言を出していることを念頭に「財政健全化」ありきではないかと苦言を呈する声もあった。

一方、統廃合が未定の六郷中の学区では「現在の生徒数では子どもたちが部活動で好きなスポーツを選べない」として、一定の生徒数が必要との意見も。別会場では近隣の町で統廃合が進む中、市川三郷だけ学校数が維持し続けるのは困難と、再編案に理解を不參加者もいた。検討委員は参加者の意見を踏まえて再編案について改めて議論し、早ければ年度内に町教委に答申する。石原政至委員長はさまざまな意見があることは理解しているが、将来的に再編は必要になると考えている。子どもたちに最良の教育環境を提供することを第一に考えたい」と話している。

(2025年3月7日付 山梨日日新聞 19面)

問1 市川三郷町で、小中学校数を半数程度に再編する案の住民説明会が終了しました。小規模校の学区などからは、どのような反対の声がありましたか。

.....

問2 町内の小学校の児童数と中学校の生徒数は、2005年から2024年の間で、何人減少しましたか。

・小学校の減少児童数:.....人      ・中学校の減少生徒数:.....人

問3 あなたは学校の統廃合について、どのように考えますか。良い点、悪い点を自由に教えてください。

・良い:.....

・悪い:.....